

# もっと知りたい

## 武者小路実篤

# 実篤の戯曲③ 舞台に

武者小路実篤は、小説や絵だけでなく、戯曲もたくさん書きました。その中には、舞台でお芝居として演じられた作品も、いくつもあります。実篤の戯曲には、どんな作品があるのでしょうか。どんな風にお芝居になったのでしょうか。

いくつか見てみましょう。

# 「その妹」



劇団民藝「その妹」舞台写真 昭和26年

〈おはなし〉

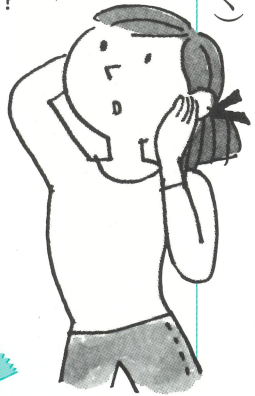
画家の野村広次は戦争で失明し、小説家として出直そうとしている。妹の静子は、兄の才能を信じて、原稿を聞き書きしたり、借金をたのんだりして、懸命に助けるが、ある日、世話になっている叔父が勤める会社の社長の不良息子の嫁になれといわれてしまう。兄妹はなんとか自立しようとするが思うようにいかず、ついに静子は、兄の生活を支えるため、縁談を受けることを決心する。

あなたが広次の役になったら、どんなふうに演じますか？

(妹が望まない結婚をするのを止めてあげられない事を嘆いて)

広次。俺は今力がほしい。(泣く)

- ・座る？ 立つ？
- ・上を向く？ うつむく？
- ・手を差し伸べる？ 拳を握る？
- ・大きな声を出す？ 弱々しく言う？



ほかには、どんな表現があるかな？

他の人にもきいてみよう！

### ポイント

「その妹」は、実篤の戯曲で一番よく舞台上で上演された作品です。現代でもときどき上演されます。このほかに「愛慾」という作品もよく上演されました。この作品は、「画家が妻への嫉妬に苦しみ、次第に正気を失っていく、ちょっと恐ろしいお話です。」



# 「人間万歳」

〈おはなし〉

神様が作ったたくさんの星の一つに人間が生まれ、担当の天使は心配しながら見守っている。一方、天界では、神様が恋をしたり、悪魔が悪巧みをしたりと、いろいろな事件が起きる。ある日、隣の宇宙の神様がやってきて、あちらでは人間がすばらしい進化をしたと聞き、皆で「人間万歳」となえて踊りだす。

笑いと風刺で、人間の可能性をたたえるナンセンスコメディです。



文藝座「人間万歳」舞台写真 大正14年

天界らしく見えるように、  
あなたなら、どんな舞台を作る？

・場所の設定は、

神殿みたいな建物？

深い森の中？

雲の上？

花園？

・神様や天使の服装は、

ギリシヤ神話ふう？

日本の神話ふう？

キリスト教の宗教画ふう？

・照明の色は、

清らかな白？

神秘的なうすむらさき？

ふんわりやさしいピンク？

・雰囲気盛り上げる音楽は、

格調高いオーケストラ？

澄んだ音色のハープやフルート？

厳かな雅楽？

どんな音でも作れるコンピュータ音楽？

ほかどんな

演出があるかな？

他の人にも

きいてみよう！



## 知ってる？

実篤は、新しき村の劇団で、自分が書いた戯曲「だるま」のだるま役を演じました。周りで騒いでいても、ずっと壁に向かって瞑想を続け、最後に「喝つ」と大きな声を出すと、いたずら者たちがおどろいて腰を抜かす、という役で、実篤の「喝つ」はとても迫力があつたそうです。



村の会場「だるま」舞台写真 昭和3年